

Special Exhibition from the Collection
コレクションによる特別陳列

没後30年 諏訪直樹展
SUWA Naoki

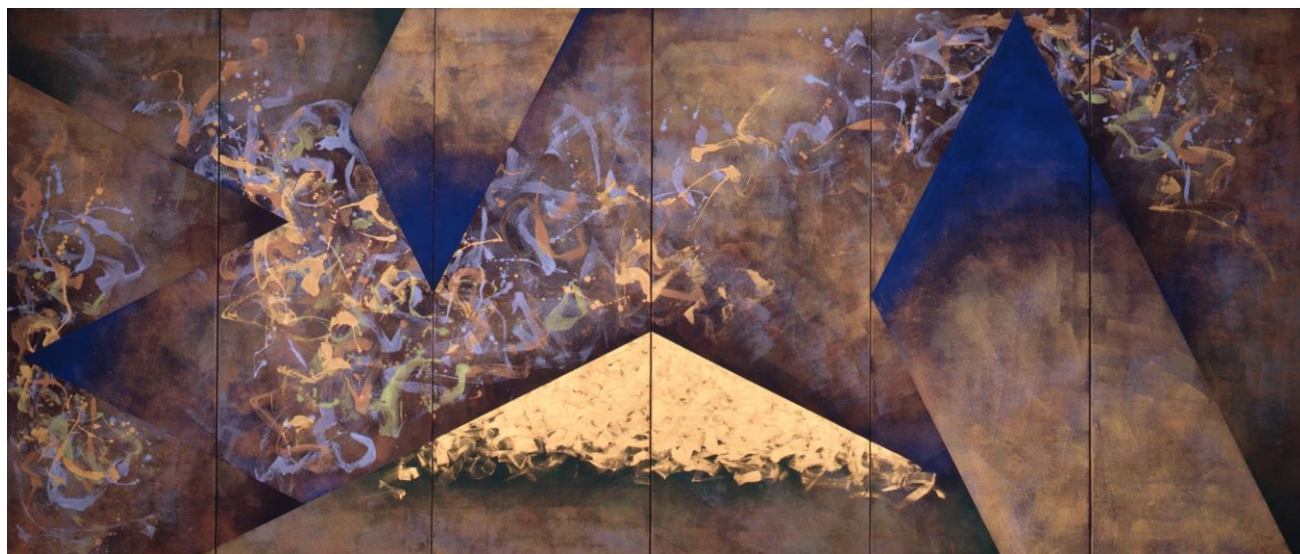


2020年2月1日[土]—4月5日[日]

三重県立美術館

MIE PREFECTURAL ART MUSEUM

a. 《PH2-8602》1986年 三重県立美術館蔵



b. 《PS-8718 八景残照Ⅱ》、1987 年、三重県立美術館蔵

三重県四日市に生まれ、1970 年代後半から 80 年代にかけて優れた絵画表現が高い評価を受けながら 36 歳で世を去った諏訪直樹(1954-1990)。

絵画という媒体の可能性を再考する真摯な制作をすすめ、日本の伝統的な手法をも導入して絵画の再活性化への独自の取り組みを示しました。

本展では画家の表現の変遷をたどる当館所蔵の全作品を一堂に展示することにより、1980 年代の美術に重要な足跡を残したその画業を紹介します。

➤ 展覧会概要

2020 年 2 月 1 日(土) - 4 月 5 日(日)

開館時間 午前 9 時 30 分 - 午後 5 時(入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日 毎週月曜日(ただし 2 月 24 日は開館し、翌 2 月 25 日(火)休館)

主催 三重県立美術館

助成 公益財団法人三重県立美術館協力会

観覧料: 一般 700 (500) 円 学生 600 (400) 円 高校生以下無料

() 内は 20 名様以上の団体料金

- ・この料金で「美術館のコレクション」、柳原義達記念館もご覧いただけます。
- ・生徒・学生の方は生徒手帳、学生証等をご提示ください。
- ・障害者手帳等をお持ちの方および付き添いの方 1 名は観覧無料。
- ・県内学校(小・中・高・特別支援)等が来館する場合、引率者も観覧無料(要申請)。
- ・2 月 16 日、3 月 15 日の「家庭の日」(毎月第 3 日曜)は団体料金でご覧いただけます。

➤ 展覧会の見どころ

1. 諏訪直樹の初期から晩年までの作品を約 20 年ぶりに一堂に公開。

三重県立美術館では諏訪の没後 11 年にあたる 2001 年に初めての大規模な諏訪直樹展を開催しました。その後、諏訪作品を収集し、現在、連作も含む 17 件 29 点の絵画を所蔵しています。今回の展覧会はこれらの所蔵品を初めて一堂に公開し、3 点の寄託作品を加え、初期から晩年までの 20 件 32 点の作品を企画展示室の全室を使って展示します。これだけ大規模な展示は前回の回顧展以来、およそ 20 年ぶりとなります。

2. 今、回顧・注目される 80 年代美術の重要作家、諏訪の画業をたどります。

近年、1980 年代の日本美術を回顧する展覧会が各地の美術館で続けて開催され、80 年代の現代美術が注目、検証されています。いずれの展覧会においても諏訪直樹は重要な作家として紹介されました。70 年代後半に始まる諏訪の制作は、当時の概念的、思弁的な現代美術の傾向を踏まえつつも、絵画という媒体にこだわり、独自のシステムによってこれを一から再生させようとするものでした。80 年代に入ると日本絵画の伝統的な要素も採り入れた豊かな絵画表現を展開します。80 年代の動向をある意味で体現するこの諏訪の制作の歩みを本展では時系列にたどってご覧いただけます。

3. 諏訪の絵画をより楽しむための鑑賞ガイドを来場者に無料配布します。

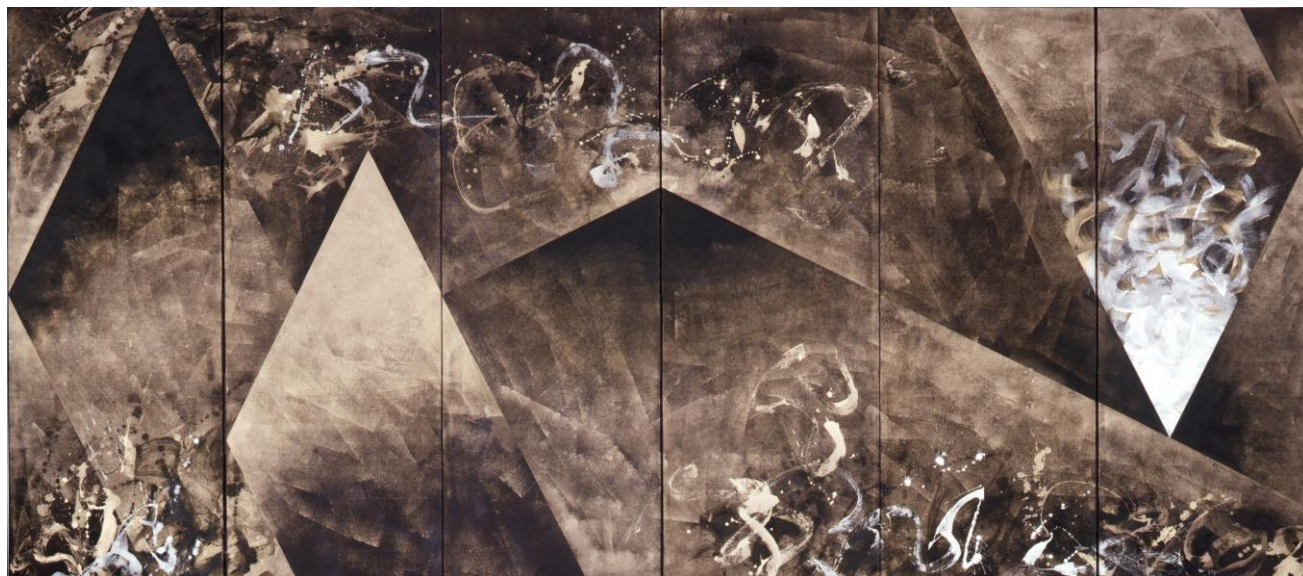
三重県立美術館では 2001 年の回顧展以後も常設展示室などで諏訪直樹の作品を紹介してきましたが、80 年代の美術界に重要な足跡を残しながらも 1990 年に 36 歳の若さで亡くなった諏訪の画業は、その出身地の三重県においても広く一般に知られ、認知されているとはいいがたい状況です。本展では、特に現代美術になじみのない方にも諏訪の作品をより楽しんでもらえるよう作品ごとにわかりやすい解説を付した冊子を制作し、来場者に無料配布します。諏訪の絵画世界により深く親しんでいただければ幸いです。

4. さらに諏訪作品を見たい方に——「諏訪直樹 没後 30 年 連鎖企画」を実施。

没後 30 年を記念する今回の諏訪直樹展にあわせて、諏訪作品を所蔵する他の美術館と連携して「諏訪直樹 没後 30 年 連鎖企画」を立ち上げました。三重県立美術館が各美術館に呼びかけて実現した企画です。諏訪直樹の最大の代表作であり、未完に終わった連作絵画《無限連鎖する絵画》を分けて所蔵する宇都宮美術館、目黒区美術館、千葉市美術館の 3 館が各館の所蔵分をそれぞれの館において特別に展示します。いずれも全長 10~20m の大画面絵画で公開されることの少ない、見ごたえある作品です。本展とあわせてぜひご覧ください（展示時期は美術館によって異なります。本資料 5 頁の「諏訪直樹 没後 30 年 連鎖企画」の欄をご覧ください。また、詳細は各館にお問い合わせください）。

➤ 年譜

- 1954(昭和29)年 三重県四日市市に生まれる。
- 1965(昭和40)年 11歳 岐阜県各務原市に転居。
- 1973(昭和48)年 19歳 岐阜県高等学校卒業。上京し、東京都杉並区に居住する。
この年から75年までフォルム洋画研究所に在籍。
- 1975(昭和50)年 21歳 Bゼミ Schooling System 入学。神奈川県横浜市に転居。
- 1977(昭和52)年 23歳 Bゼミ Schooling System 修了。初めての個展を開く。
- 1983(昭和58)年 29歳 Bゼミ Schooling System で専任講師となる。
「現代美術の新世代展」(三重県立美術館)に出品。
「釜山ビエンナーレ」、「バルパライソ・ビエンナーレ」などの国際展に出品。
- 1986(昭和61)年 32歳 「'86岐阜現況展—戦後生まれの作家たち<平面部門>」(岐阜県美術館)、
「日本現代美術展」(台北市美術館)などに出品を行う。
- 1987(昭和62)年 33歳 「もの派とポストもの派の展開—1969年以降の日本の美術」(西武美術館)、
「斉藤豊作と日本の点描」(埼玉県立近代美術館)に出品。
- 1988(昭和63)年 34歳 「ニュー ジャパニーズ スタイル ペインティング—日本画材の可能性」
(山口県立美術館)に出品。
《無限連鎖する絵画》の制作を開始。
- 1990(昭和65)年 36歳 神奈川県酒匂川でカヌー下りを行い、水難事故に遭遇。死去。



c. 《PS-9002》 1990年 三重県立美術館蔵

➤ 会期中のイベント

■ 記念講演会「思い出の諏訪直樹」

講師：北澤憲昭（美術評論家）

日時：2月23日（日）午後2時—（90分程度）

場所：三重県立美術館講堂

申込不要／聴講無料／定員150名

■ ギャラリー・トーク

日時：2月15日（土）、3月28日（土）

各日午後2時—（30分程度）

場所：三重県立美術館企画展示室

講師：速水豊（三重県立美術館館長）

申込不要／参加無料／要観覧券

※手話通訳・要約筆記が必要な方は事前にご相談ください。

連続講座「諏訪直樹の絵を見る」

■ 第1回「諏訪直樹の絵を見るために —1970年代の美術」

講師：石崎勝基（美術史家）

3月7日（土）午後2時—（60分程度）

場所：三重県立美術館講堂

申込不要／聴講無料／定員150名

■ 第2回「諏訪直樹の絵を見ながら語る」

講師：石崎勝基（美術史家）

3月21日（土）午後2時—（40分程度）

場所：三重県立美術館企画展示室

申込不要／参加無料／要観覧券

諏訪直樹

没後30年 連鎖企画

没後30年を記念し、諏訪直樹作品を所蔵する下記の美術館が最後の大作《無限連鎖する絵画》を展示します。本展とあわせてぜひご覧ください。

■ 宇都宮美術館 展示室 I

2019年11月23日—2020年2月24日

令和元年度 第3回・コレクション展

《無限連鎖する絵画 PART1 (No.1-12)》
(1988年)を一挙公開。

■ 千葉市美術館 コレクション展示室

2021年1月—3月

特集展示：諏訪直樹

《無限連鎖する絵画 PART3 (No.37-50)》
(1990年)を公開予定。

■ 目黒区美術館

2020年2月15日—3月22日

目黒区美術館コレクション展

越境者たち——Beyond the Borders
《無限連鎖する絵画 PART2 (No.13-31)》
(1989年)を公開予定。

*詳細は各館にお問い合わせください。



d. 《波濤図 No.1》1980 年 三重県立美術館

➤ 広報用画像のご提供について

本プレスリリース掲載の画像を広報用に提供します。ご希望の方は、注意事項をお読みのうえ、下記連絡先に希望の画像番号をお知らせください。Eメールにて画像をお送りします。

■掲載にあたってのお願い

- ・上記キャプション（作品名）を画像と一緒に掲載してください。
- ・作品画像への文字乗せ、画像トリミングはご遠慮ください。
- ・掲載物を2部、または紙面データを美術館にお送りください。
- ・ウェブサイト上に掲載する場合はコピーガードをかけ、転載禁止の旨を明記してください。
- ・画像データの広報目的以外の使用はできません。

■お問い合わせ

三重県立美術館 学芸普及課 高曾（こうそ・広報）、鈴木（すずむら）

TEL. 059-227-2100（代表）／FAX. 059-223-0570

Eメール: kosoy00@pref.mie.lg.jp（高曾）

〒514-0007 津市大谷町11

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

Follow us on Twitter @mie_kenbi